

小田原ガイド協会だより

OGG 第95号

NPO法人
小田原ガイド協会

小田原市城内3-22(〒250-0014)
TEL.0465-22-8800/FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>

巻頭特別寄稿

大久保忠世・忠隣と小田原城

諏訪 順

(小田原城天守閣館長)



相州小田原古絵図(加藤図)

二〇二三年のNHK大河ドラマ「どうする家康」が始まった。主人公の徳川家康(松平元康)を中心に今川義元、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉などそうそうたる戦国武将が次々と登場している。その中で北条氏政や氏直はどのように描かれるのか、今回も引き立て役に回るのであるのか。そんな想いで大河ドラマを見ているが、今回の楽しみのひとつは、徳川家康を支える家臣として大久保忠世が登場していることだ。ドラマでの忠世は、小手伸也さん、名わき役として数多くの映画やドラマでご活躍されている方で、昨年六月には大久寺など忠世ゆかりの小田原の地を周られた際に私も小田原城をご案内した。忠世にまつわる歴史を真摯に聞かれていたのが印象的であった。大河ドラマでの小手さんの演じる忠世の活躍を見てみたいものだ。

一大久保忠世の小田原転封と

慶長期の小田原城の理解

天正一八年(一五九〇)七月五日、北条氏政・氏直は豊臣秀吉との小田原合戦に敗れ小田原城は開城となる。七月一日に小田原城に入った秀吉から家康の関東移封が公表され、あわせて小田原城主には、家康重臣の大久保忠世が指名された。この時、忠世は家康から所領四万石が与えられ、さらに秀吉から五千石を増されたという。忠世の小田原転封は、家康からではなく、秀吉からであったことが大変興味深いところである。

小田原城開城以降は、大久保忠世・忠隣親子、稲葉正勝・正則親子という徳川家譜代の大名が城主となり、江戸幕府の

西の守りを固める重要な城として、天守、櫓、城門と石垣と水堀による近世城郭に改変される。

これまで小田原城の研究では、北条氏滅亡後に入城した大久保忠世・忠隣の時代には、北条氏の小田原城はそのまま温存され、近世城郭として大きく改変されるのは、寛永九年(一六三二)以降の稲葉正勝・正則によるものと考えられてきた。それは小田原城古絵図群の系統的な検討から導き出された妥当性のあるものと言える。

「相州小田原古絵図」(加藤図)は、慶長一九年(一六一四)の忠隣改易後、寛永九年(一六三二)以降の稲葉氏による普請以前の姿が描かれると評価されていた。しかし、一七世紀中頃成立の正保図やそれ以降の小田原城図と比べ稚拙な描かれ方であり、民間で作られた図として信憑性が疑問視されていたのである(小笠原・田代他一九九五)。

二 発掘調査で明らかになった

近世初期の小田原城

こうした状況の中で、発掘調査によって、これまで不明であった大久保忠世・忠隣による小田原城の改変、近世化へと向かった様子

が次第に明らかになってきた。

住吉堀の調査

一九八二年から

二の丸住吉堀の発掘調査が開始され、考古学的調査による小田原城の本格的な研究が始まった。調査の結果、北条氏による障子堀が検出されたが、それらの上に重複して別の障子堀や野面積み石垣が構築されていた。その年代は、堀の覆土から瀬戸・美濃産志野皿や肥前産唐津皿など一六世紀末から一七世紀初頭に隆盛する陶器が出土したことなどから慶長期であることが明らかになった。すなわち、北条氏の構築した障子堀を改変し、大久保忠世・忠隣によって別の堀や石垣が構築されていたのである。さらに稲葉氏によって正保図以降の絵図にみられる近世の縄張に改変されていた。住吉堀の



銅門1号石垣（住吉橋北側 慶長期の野面積み石垣）

発掘調査によって近世城郭として確立する以前に、慶長期の大久保氏、戦国期の北条氏と何回かの変遷が明

らかになったのである。

箱根口跡の調査

一九八六年から

翌年にかけて実施された箱根口跡の調査では、正保図に描かれないう堀が三本検出された。正保図は、正保元年（一六四四）に幕府が諸藩に命じて作成させた絵図で、およそ一七世紀中葉の小田原城と城下の様子が詳細に記載されているものである。正保図にない堀は、一七世紀中葉以前の堀であることが確実で、小田原城の変遷過程を知るうえで極めて重要な発掘成果となった。このうち箱根口三号堀は、小田原城では最古期の慶長期の瓦が大量に含まれる土で埋め立てられた。出土遺物には、志野皿などが含まれており、慶長一九年の忠隣改易に伴う徳川家康・秀忠による小田原城大破却の痕跡と推定された。箱根口三号堀は、三の丸小学校建設に伴い実施された藩校集成館跡の調査で、東側の延長が検出され、浅い障子堀であることも確認されている。

三の丸東堀の調査

一九九一年

から翌年にかけて実施された三の丸東堀第Ⅱ地点の調査では、寛永期以降の稲葉氏による近世化された石垣の下から、加藤図にのみ描かれていたクランク部の堀と石垣が検出された。この石垣は玉石積



三の丸東堀第Ⅱ地点（東京電力）の切石積み（寛永期）と玉石積み（慶長期）

みで未発達の隅角部であり、堀底には低い堀障子を伴っていた。この発掘調査の成果からこれまでその信憑性が疑問視されていた最古の小田原城絵図「加藤図」は、近世初期の小田原城の姿を正確に記していることが確認できたのである。

三の丸元蔵堀の調査

元蔵堀は

これまで七地点で発掘されているが、調査の結果、いずれも障子堀であることが確認されている。このうち第Ⅱ地点では堀障子に削り出しの階段や足掛け穴が確認され、堀が作りかけで供用されたものと考えられた。元蔵跡一号堀では玉石積み石垣を伴う障子堀も確認されている。この元蔵堀も出土遺物から慶長期の堀と考えられ、工事が中断された状況が認め

られた。大久保忠隣改易に伴う中断の可能性も考えられ、今後のさらなる検討が必要であろう。

おわりに

大久保忠世・忠隣による小田原城の近世化は、低地部三の丸外郭や二の丸住吉堀など各地点で大規模に行われていたことが明らかになった。その時期は、文禄三年（一五九四）の忠世が没後、忠隣によって本格化したと考えるのが妥当であろう。その近世化の大改造は、慶長一九年（一六一四）の忠隣改易により中断されることになる。同年一月に勃発する大阪の陣の直前の忠隣改易、そこには関係があるのだろうか、小田原城の知られざる近世化の過程にも謎が秘められているかもしれない。

【参考文献】

- ・小笠原清・田代道彌他（一九九五）『小田原市史』別編城郭 小田原市
- ・下重清（二〇一八）『小田原藩』（シリーズ藩物語）現代書房
- ・諏訪間順（二〇一九）『小田原城の歴史』
- 『戦国大名北条氏の歴史』吉川弘文館

企画ガイド

小暮次郎
「チンチン電車の思い出」

高橋絹代

私は生まれも育ちも小田原で昭和30年頃小田原駅～板橋行きの市電に乗っていました。運転手さんと車掌のおじさんが切符を切ってくれました。

昭和31年チンチン電車最後のフイナールの日、ピンクの薄紙の花で飾られた電車「写真」を何度も見送った小学生だった私。今回のガイド企画では二回にわたり小田原から箱根湯本まで、明治大正の古い絵や写真を頼りに電気鉄道の足跡を参加者と共に歩いてみました。

流石歴史の古い城下

町小田原、道筋には今も続く老舗の店、懐かしい建物や多くのお寺があり当時の絵や写真と現在の街並みを見比べながら「この場所はこの絵の所ですね」「この絵の中にあるこの木はこちらのイチヨウの木ですね」「この角の早川口が熱海行きの軽便鉄道の始発駅だった場所」等お客様も大きく頷き、



小暮次郎さんの絵を検証しつつ今流行りのロケ地巡礼のようで楽しさ倍増でした。

二回目は12月15日。板橋見付を過ぎると電気鉄道は旧道に入り湯本までの道のりを進みます。風祭で鈴廣さんの土産店を大きく左折し早川沿いに出る。小春日和の中、早川のせせらぎを聞きながら、河辺にいるサギなどをバードウォッチング。

車の通らないスキの道は最高のプロムナード。師走とは思えない喧騒のない時の流れ。知られたくないが勧めたい絶好の穴場です。

いよいよ本日のハイライト!! 前田橋のつり橋に到着です。橋上定員四名。昔ながらの作り。箱根にこんなつり橋が残っているのが

不思議です。湯本駅近く富士屋ホテル前名残りの紅葉が陽の光の中でキラキラと見事に映え紅葉狩りも楽しめました。賑やかな温泉街に入り電気鉄道の終点駅河鹿荘前に無事到着。参加者が少数だった為、お客様同士の会話も弾み「楽しかった」の声を背に今回の企画ガイドは完了しました。

企画ガイド

北原白秋
「零落」から「栄達」へ

石塚三津江

「本を片手に文学散歩」がテーマの企画ガイド。約半年に渡り、何度も検討を重ねてきた。今回のテーマは、北原白秋の没後八十年を記念して小田原での白秋の足跡を巡ることである。

ガイド実施日は10月の二日間決定。次は要となる白秋の冊子作りだが、リーダーの尽力により立派な冊子が完成した。充実した内容と迅速さに脱帽しかない。さつそく冊子はガイドにフル活用させていただきます。

先輩方は文学の知識が豊富で多くの本を読破されている。その中で私は対応できるか心配だった。次々に紹介される本や資料を懸命



白秋童謡館

に読みコースの下見を行ったが、参加者の文学知識はどれほどなのか、私はそれに答えられるか不安しかない。白秋全集

を読破することを早々に諦め自分なりに分かりやすく伝えることに決めた。

初日は「晴れ女」の私の予測どおり秋晴れとなる。先ず三の丸ホール横のイベントスペースでの講義から始まった。丁寧で分かりやすい解説に参加者は真剣に聞き入っていた。白秋の略歴を理解した後、ガイドスタートである。御幸の浜に着くと景色が開け、磯の香りと青い海が広がっていた。白秋が滞在した養生館など説明したが、皆解放感ある風景に浸っていた。

次の日は山コースで、賑やかな街のすぐ先に竹林など趣のある山里の風景が現れた。都会から来られた方は「いい所ですね」と感動している。私がこの企画で悩んだのが、白秋の文学をガイドにどのように取り込み説明するかだった。しかし先輩方の立派なガイドを拝見できたことで答えが見つかった気がする。解散時の参加者達のにこやかな様子にほっとしながら、白秋一色だったこの数か月が思い出された。



赤い鳥小鳥碑 (小田原文学館)

企画ガイド

感動!!

めだかのぼり

府川 清行

自転車で街中をぐるりと自由に散策できる、レンタサイクルの利用が年々増加しています。

今回は絶滅危惧種に指定されている小田原メダカにスポットをあてました。市内にあるメダカの生息地を自転車で巡るといいうもので、小田原ガイド協会では今までにない新企画。私もそれに携わる事が出来ました。

自宅近くには荻窪用水が流れていて童謡「めだかの学校」は、荻窪用水の小川がモデルで作られたそうです。小田原には荻窪以外にも「めだか公園」「メダカの碑」「めだかの生息地」といったメダカに関わる場所が有る事も分かりました。ガイド当日の11月5日(土)に参加して下さったお客様は四名でした。ガイドを含め三名ずつの二グループで、UMECOを九時三〇分にスタートしました。最初に行ったのは「めだかの学校」でした。事前勉強でメダカの生息も確認していたので、音を立てずに静かに奥まで進むとメダカの姿を

見ることが出来ました。それから普段入る事が出来ない五百羅漢や水に関わる水道発祥の地だったり、福田寺の高瀬舟などを見ながら進みました。

桑原のメダカを語る時に、忘れてはならない方として沖津昭治さんがいます。メダカの保護活動を行っていて、自分の田んぼをひとつ潰してめだか池を造りました。

めだかの生息地では当日娘さんが関連資料や水槽を準備し、保護活動のお話を聞くことが出来ました。また、めだかのぼりも泳いでいて感動しました。お客様の反応も良く、「風を切つて走れるので気持ち良かった」と感想を聞くことが出来ました。初めての企画で参加者は少なかったのですが、今後

後も継続し充実させていきたいとの意見が出ました。今後の活動にも注目していただきたいと思います。



委員会だより(Ⅰ)



インカム委員会

昨年の新型コロナウイルス禍から世の中の行動制限が徐々に緩和され始めた頃、当協会もガイド数が増えインカムの要望台数も急増してきました。この動きはある程度予測できたことと役員の勤めもあり、新規に三十台購入し計二百台体制で対応することになりました。それでも、最繁忙期を週単位で見ると、当初予測ではインカム要望数約二百五十台を在庫二百台で賄うことになりました。計算上、消毒・準備、お渡し、片付け・洗濯・消毒で倍の約五百台余を七日間で回すことになりました。

これを取り切るには、従来七・三日の準備・貸出し・片付けを四日に短縮し回転を上げました。また、二日間にわたるガイドは一泊貸出し(ガイド担当者のご自宅で消毒・充電)だと計算上半分で済むことで乗り切りました。効率よく作業を減らすため、消毒不要の百円イヤホンの販売継続、使い捨てストラップ使用を考えましたが、意外にも直ぐに数が揃わない

ことと百円以下で手に入る方法があるため採用しませんでした。この間、メンバーにはご自分の業務と仕事・家事をこなしながら三・四日に一度事務所に来て対応していただきました。

先輩によると、コロナ禍以前は気が付かなかったストラップですが、夏は汗臭くなり洗濯が必須となり、これ以降洗濯が常態化したそうです。今思つとお客様に清潔・安全・快適にお使いいただくには必要なことでした。

協会員の方には、インカム使用後は引き続きストラップの取外し、本体の消毒・充電をお願いしたいと考えております。今後とも協力をお願い申し上げます。

今後、当委員会は、拡声器を含むトランシーバー・ポケット・携帯電話など、パソコンを除く通信関係の管理と使用方法の改善・提案・サービスの向上をはかつて参ります。

「二〇二三年一月：飯塚忠夫」

左：従来型
(120台)右：新 型
(80台)

シリーズ家康紀行 ①

そこに忠世公がいた！

長篠古戦場訪問記

橘川 健人



第一回は「大久保忠世公」大活躍の長篠古戦場。家康公の戦績を調べると72戦52勝10敗12分け、勝率七割三厘、信長、秀吉に比べ戦国の三英傑の中で勝率は低い。「三方原の合戦」を含め信玄に五連敗したのが響いている。その中で、今回取り上げるのは天正三年（二五七五）に行われた長篠合戦。そもそもこの合戦は信玄亡き後、家臣団を縛める必要があった勝頼と家康の国境紛争である。武田から徳川に寝返った長篠城を奪還すべく四月に甲府を発した勝頼軍一万五千に対し、家康が信長に援軍を頼んだことから設楽原で大会戦が行われることに。さて現在の古戦場の様子は如何に？早速行ってみましょう。

一・長篠城址と

勝頼本陣の医王寺

僕に乗った電車は豊橋駅に着、飯田線に乗換え長篠城駅を目

指す。豊橋平野に山が迫る頃茶臼山駅に停車、茶臼山は信長公が本陣を構えた山、この駅名で設楽原古戦場に来たことが分かる。電車は決戦の日、血に染まった連呉川を越え山間部に入っていく。鳥居強右衛門を顕彰して作られた鳥居駅を過ぎると、豊川支流の寒狭川の鉄橋を渡る。そこは既に長篠城の城内、電車は土塁の上を走り長篠城駅に到着した。豊橋駅から約一時間、今日はこれから三河東郷駅まで10⁺余り歩く。

長篠城駅から数分で日本百名城の長篠城に到着する。まず長篠城址史跡保存館に行く。血染めの陣太鼓と鉛製火縄銃の弾丸に感激する。次に城内の見学、城は豊川支流の寒狭川、宇連川が合流するV字状の位置にあり、比高差30⁺の断崖絶壁上に築かれている。五月八日から勝頼は奥平貞昌以下五百人の城兵が守る長篠城を度々攻めたが、中々落とせない。そこで本陣を「医王寺」に構え、長篠城対岸に鶯ヶ巣山砦、中山砦等五つの砦を築き兵糧責めをする。長篠城からの援軍要請を受け一六日設楽原に進出した織田・徳川連合軍は、隊列を縦長にして戦力を少なく見せかけ、更に馬防柵を築き武田軍を恐れていると見せ勝頼をお

びき寄せる。結果長篠城が持ちこたえたことで連合軍の勝利となるのだが、今日はそう言う目で長篠城を見る。遺構は土塁と空堀のみであるが、地形を上手く利用した縄張に感心する。更に本丸を守るように碁石川が深い谷を形成し、完全に一方向しか攻められない構造になっている。この地形こそが長篠城が百名城に選ばれた理由である。本丸に行くと宇連川越しに鶯ヶ巣山砦と中山砦を望めるが、現在丁度その中間に新東名が建設され景観は大きく変わっている。もう一カ所の見所は寒狭川越しに見る「鳥居強右衛門」磔刑の地だ。僕は強右衛門が大好きだ。

▲【長篠の戦い】
布陣図

医王寺と
医王寺砦 ▶



強右衛門は武田包囲網を強行突破、70⁺離れた岡崎城の家康に援軍を要請。帰途武田軍に捕縛されるが、落城寸前の味方に「援軍来ると叫び処刑される。目を閉じると強右衛門の思いが伝わりぐつとくる。城内見学もそのくらいに次の目的地「医王寺」に向かう。歩くこと十五分、ここは長篠城を囲んだ勝頼が本陣にした場所だ。立派な本堂と勝頼公本陣跡の碑があり、時間があれば裏山の砦跡にも行きたいが、今日は4⁺先の設楽原に向かう。

連合軍来るとの報で、長篠城を囲んだまま勝頼は二〇日に部隊を設楽原に移動する。そこで目にしたのは馬防柵の中の左翼信長軍、右翼徳川軍四万の大軍であった。馬防柵は設楽原の中央を流れる連吾川の手前に延々と2⁺に渡り三重に築かれていた。そして二一日早朝戦局は大きく動く、酒井忠次別働隊により鶯ヶ巣山砦が落とされ、長篠城の囲みが破られる。このことで退路を断たれた勝頼は重臣の進言を聞かず決戦を覚悟し軍配を振り下ろす。我等が忠世公は馬防柵の外に出て構える。正面は武田四天王の山県昌景軍、全軍入り乱れた決戦が始まるうとしていた。が、今回はここまで。(つづく)

一 身近な大地震

身近な大地震は十二年前、三月十一日の東日本大震災です。私の特別な印象は、テレビで東北地方の余震が伝えられると、自分の家も数十秒後に必ず揺れ始めたことです。一回だけではなく何度も経験しました。日本は東北も関東も西日本も大陸から分離した一つの列島であることを強く感じました。

二 地球の中味

人類は、最も高いところで、上空約五百キロメートルの宇宙ステーションで働いています。しかし半径約六千四百キロメートルの地球では、約二千九百メートル地下の南アフリカ金鉱山の仕事に限界です。地球の奥深くへ潜ることはできませんが、人工的に地震を起こし地震波によって地球の中味を知ることができます。地震波は冷たく硬くて固体ほど早く進みます。地球は中央に固体と液体の高温の鉄（核という）、その周りに軟らかくなった固体の高温の岩石（マントルという）、外側に薄い地殻と硬い岩石（両方でプレートと

いう）からできていることが分かっています。

三 プレーートの話

地球が約四十億年前から海と陸の地球になったことは、約四十億年前の片麻岩（大陸を作る岩石の花崗岩が熱により変成した岩石）により分かっています。地球の表



真木 和男

今年は大正12年の関東大震災から百年目の区切りに当たります。そこで、4回にわたり〈地震の仕組み〉〈関東大震災〉〈小田原の地震〉〈防災〉について連載いたします。

第一回目は

地震の仕組み

についてお話しします

面は海と陸であり、海と陸の約十三枚のプレートからできています。約十三枚のうち四枚のプレートが日本の周りに集中しています。海底の地殻は重い玄武岩からでき、陸上の地殻は軽い花崗岩や安山岩によりできています。海のプレートと陸のプレートは押し合っています、その結果、重い海のプレートが軽い陸のプレートの

下へ潜ります。二つのプレートの押し合いが地震や火山の原因となります。私たちの住むフィリピン海プレートは、御殿場線沿線より東側また北側の北米プレートを押しながら近づき、潜り込んでいます。たとえ話をするならば、小田原から約六十キロメートル離れた大島は、小田原へ年間約四センチメートルずつ近づいているので約百五十万年後に衝突するであろうと考えられます。

四 地震の仕組み

小田原駅方面の私たちはフィリピン海プレートの上に、国府津方面の人たちは北米プレートの上に住んでいます。東京から小田原へ来るには、国府津と酒匂川の間で二つのプレートを跨がって来なければなりません。プレートの潜り込みは、巨大なシャベルカーが地下へ潜り込むようなものです。厚さ約百キロメートルのプレートが、他方のプレートの下へ年間約四センチメートルの速さで潜り込みます。従って、最先端は丹沢直下にあります最後方が三島

付近と言う状況になります。

巨大なプレート同士の押し合いのために、特に押される側のプレートの地殻にヒビが入り、ズレを生じます。最初に岩盤のズレるところが震源地で、震源地からヒビとズレが広がった地域を震源域と言います。地震波は震源域から全方向に伝わり、地上で地震波を感じた地域が地震となります。

活断層はズレている岩盤のことで、地中にあるので一般には見ることができません。山中の侵食された谷で見られるかもしれません。田島の一徳寺裏山にある横穴墓の左側の沢を上り、六つ目の堰堤の上に国府津松田断層の一部である活断層「写真」を見ることが出来ます。



リレーエッセイ／わたしの城旅 ①9

北条水軍の城 長浜城

日下部修一

昨年の12月中旬、伊豆の小田原北条氏ゆかりの城跡を訪ねました。ガイドの際に話題にすることがあっても実際に見たことはなく、やや後ろめたい気持ちもありました。風が強く非常に寒い中、山中城跡、葦山城跡を訪ねて長岡温泉に泊まりました。翌日は風も収まり長浜城址に向かいました。カーナビでは駐車場が表示されず、県道17号線をさまよいながらようやく到着しました。

長浜城の築城は15世紀後半ごろとされますが、本格的な北条の水軍城として使われたのは、甲斐の武田軍の駿河侵攻で狩野川河口に三枚橋城を築いた天正七年（一五七九）とされます。北条氏は伊豆国の中でも重要であった葦山城を海からも攻

め込まれないように北条水軍を集結させたといわれます。城跡に上つていく入口には、説明看板や新しいトイレも整備されており、木で組まれた遊歩道が付けられ、大変歩きやすくなっています。



長浜城第一曲輪



長浜城安宅船

長浜城跡が位置する内浦湾は、長井崎と淡島によつて風が遮られ、周りが強風であっても穏やかさを保ちます。そのため船の係留に適しており、戦国時代の軍船も城の周辺に停泊していたと考えられます。実際、多くのヨットが係留されていました。第二曲輪には櫓がありました。観光用の展望台ではなく、調査の結果から再現された櫓のようです。実際に登ることができ、なかなかの絶景を楽しむことができます。昔も同じような景色で、軍船の湾内での動きも良く見ることが出来たのかもしれない。

位置する第一曲輪には、写真も掲げられ、位置関係が良く分かるようになっており、北条氏の敵城である三枚橋城の監視や水軍の指揮が行われていた様子も感じられます。県道近くに安宅船「あたけぶね」の実物大の平面模型が設置されているので大きさを実感できるところの一つです。それにしても安宅船の大きさにはビックリでした。

【2023年企画ガイド予定】 申込み・お問合せ 0465-22-8800

企画名	月日	コース概要
おかめ桜 と 根府川の海	3/9・13 (木) (月)	根府川駅～寺山神社～天正庵跡～見晴台～江之浦漁港～釈迦堂～関所跡～根府川駅
桜咲く 心うきうき 邸園巡り	4/4 (月)	箱根板橋駅～松永記念館～皆春荘～西海子小路～松本剛吉邸～小田原文学館
早川 山側の史跡を巡り そして海へ	4/17・13 (月) (日)	JR 早川駅～早川観音／真福寺～紀伊神社～ totoco 前～提灯灯台～おさかな通り～小田原漁港
家康公・小田原滞陣の百余日 徳川陣場を巡る	5/14 (日)	JR 小田原駅～井細田口～福蔵寺～酒井陣場～今井(徳川陣場)～奥平陣場～蓮上院土塁～小田原駅
家康公・小田原滞陣の百余日 「家康アラカルト イン 小田原」	5/22 (月)	風祭駅～萬松院～小田原用水取水口～大久寺～無量寺～なりわい交流館
曾我兄弟ゆかりの地 梅の里曾我を歩く	5/28・6/5 (日) (月)	JR 下曾我駅～宗我神社～法輪寺～曾我祐信屋敷跡～城前寺～梅の里センター

・詳細は、小田原ガイド協会ホームページをご覧ください。
・新型コロナウイルスの感染状況等により、延期・中止の場合があります。

【12月以降の退会者】

小金郁三さん

ありがとうございます

【編集委員】

磯崎知可子

柏木由美子 上田信一

【編集後記】

■先日、駅レンタサイクル当番の折、お客様に行き先を尋ねると「久野。幻庵屋敷跡」ときっぱり。以前にも同じように答えたお客様がいて「いわゆるマニアックな幻庵ファンっているのだなあ」と感心した。

北条五代の大河ドラマが実現したら「描き方次第で久野は全国区になるかも」と秘かに思っている。(U)

令和5年度賛助会員

賛助会員のお店は皆様をお待ちしています！

賛助会員の皆様にはガイド協会の活動に賛同しご支援を頂いています。

賛助会員の詳細は小田原ガイド協会HPをクリックしてください。

<http://www.odawara-gaido.com>

☎ 0465-

☎ 0465-

朝ドラファ〜ミハルネ店 23-3100	せきしん運輸 42-7375
鰺 竜 北 條 080-5465-0066	田 毎 24-3030
伊 勢 屋 22-3378	田中屋本店 22-5545
う り ろ う 24-0560	だるま料理店 22-4128
魚市場食堂 23-3818	長 一 商 店 42-0359
江 嶋 22-1661	欄干橋ちん里う 22-1547
小田原種秀本店 22-6238	露木木工所 22-5995
小田原箱根商工会議所 23-1811	東 崑 庵 22-4657
籠 清 23-4530	鳥 かつ 楼 22-2078
籠 常 商 店 23-1807	菜 の 花 24-5688
柏木美術鋳物研究所 22-4328	箱根屋酒店 22-6416
カネタ前田商店 23-4741	小田原早川漁村 24-7800
甘味処 鎌 倉 20-4475	平 井 書 店 22-5370
居酒屋 金 時 23-0721	松崎屋陶器店 24-2479
食事処 幸 繁 22-5155	マツシタ靴店 24-2233
グリル 木の实 22-2912	万 葉 の 湯 23-1126
さがみ信用金庫 24-3161	柳屋ベーカリー 23-2342
志村屋米穀店 24-2224	山市湯川商店 22-5637
杉 兼 商 店 22-5051	山 安 21-1137
鈴木製館所 22-3520	R Y O 20-0077
鈴廣かまぼこ 22-2333	

【50音順】